

分野：特別支援教育

主張
 高等部1年生の段階から自己理解を深める学習を計画的に行えば、就労に向けた学習に主体的に取り組む態度を養うことができる。

I 主題設定の理由

本校高等部卒業生Aさんは、一般就労の希望を叶えたものの、一年も経たずに離職をしてしまった。Aさんに理由を尋ねると「この仕事が本当に自分に合っていて、やりたい仕事だったのか分からなくなった」と話した。

Aさんが高等部3年生のとき、面接等に向けて履歴書を書く際に「自分の長所と短所は？」「配慮してほしいことは？」について書くことができず、卒業間近にもかかわらず自己理解が進んでいないことが思い起こされた。本校の過去5年間における一般就労を叶えた卒業生は21名いるが、1年以内に離職をした生徒は9名で、Aさん同様、自己理解に乏しく、作業学習や現場実習等の就労に向けた学習で主体性が発揮されにくいという実態があった。

そこで、自分の長所や短所を適切に理解できる学習を高等部1年生の段階から計画的に行えば、自己理解が深まり、就労に向けた学習により主体的に取り組む態度を養うことができるのではないかと考えた。また、この取り組みが今後の一般就労をする生徒の離職率の低下につながってほしいと願う。

II 研究内容

生徒の自己理解を深め、就労に向けた学習に主体的に取り組む態度を養うため、「進路に関する学習」を計画的に行い、指導内容の工夫を行う。

III 研究方法

以下の対象生徒2名について、「働くために必要な力」（17項目のチェック表）を基に、自己評価と目標設定を繰り返しながら、自己理解の深まりと学習態度の変容を検証する。

Aさん（単独電車通学）

生活面	行動がゆっくり
学習面	集中して取り組むことができる。（漢字検定5級取得）
コミュニケーション	大人しい、受け身

Bさん（単独電車通学、寄宿舎週1泊利用）

生活面	遅刻傾向、寝坊、夜更かし
学習面	話を聞くのが苦手、自分の気持ちを文書で書くことが苦手

コミュニケーション	おしゃべり、自分の話を一方的にしがち
-----------	--------------------

IV 実践（作業学習、職業）

【高等部3年間における進路決定までの目標】

1年生（知る）	2年生（選ぶ）	3年生（決める）
年度始めの進路学習を通して、 <u>日中で必要となる支援（短所）と自分の強み（長所）</u> を1年間かけて探る。	校外職場実習等を通して、 <u>自分に必要な支援（短所）</u> が得られ、 <u>自分の強み（長所）</u> を発揮できる業種を考え、挑戦する。	職場実習を通して、 <u>自分に必要な支援（短所）</u> が得られ、 <u>自分の強み（長所）</u> が発揮できる事業所を選ぶ。

【令和3年度より実践している学習（作業学習・職業）】

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
I進路に関する学習		校内実習	技能検定	接客	進路II	校内実習	介護	技能検定	委託業務	進路III
	三者面談		三者面談				三者面談			

【進路に関する学習内容】

1. 就職活動の進め方
2. 自己分析
3. 労働条件の具体化
4. 求職活動の開始
5. 履歴書の書き方
6. ハローワーク訪問(面接)
7. 一般就労をした卒業生の職場訪問
8. 自己評価、他者評価のチェックシート 実施、振り返り

V 主な成果

- ・年度初めに「進路に関する学習」を設定したことで、「1年後には長所と短所が分かるようにしなければならない」という見通しを持つきっかけとなった。
- ・チェックシートを用いたことで、1年生の段階から自分の課題を把握し、課題改善に向けて学習に取り組むことができた。
- ・2年生前期の段階で、2人とも「4（できる）～3（だいたいできる）」の評

価であった。また、Bさんについては「企業就労できる」との評価も得ることができた。

VI 今後の課題

今後の課題として、「働く力」だけでなく「生活する力」や「楽しむ力」「教科等で育む力」などを有機的に結びつけたカリキュラムを実現できるようにすることで自己理解をさらに深め、生徒一人一人が安心して社会へ羽ばたくことができるよう個々に応じた課題の把握と支援方法を探っていけるようにしたい。